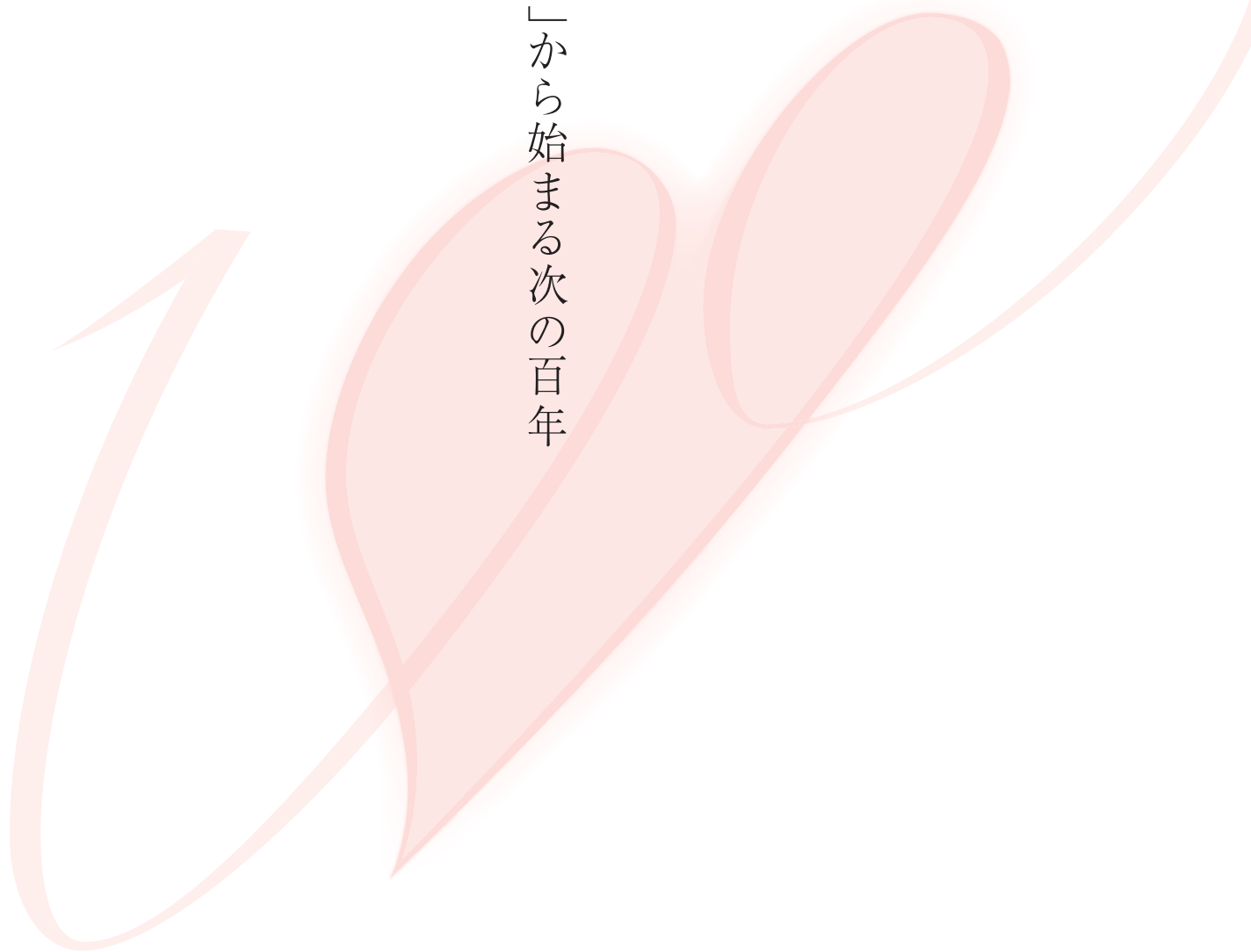


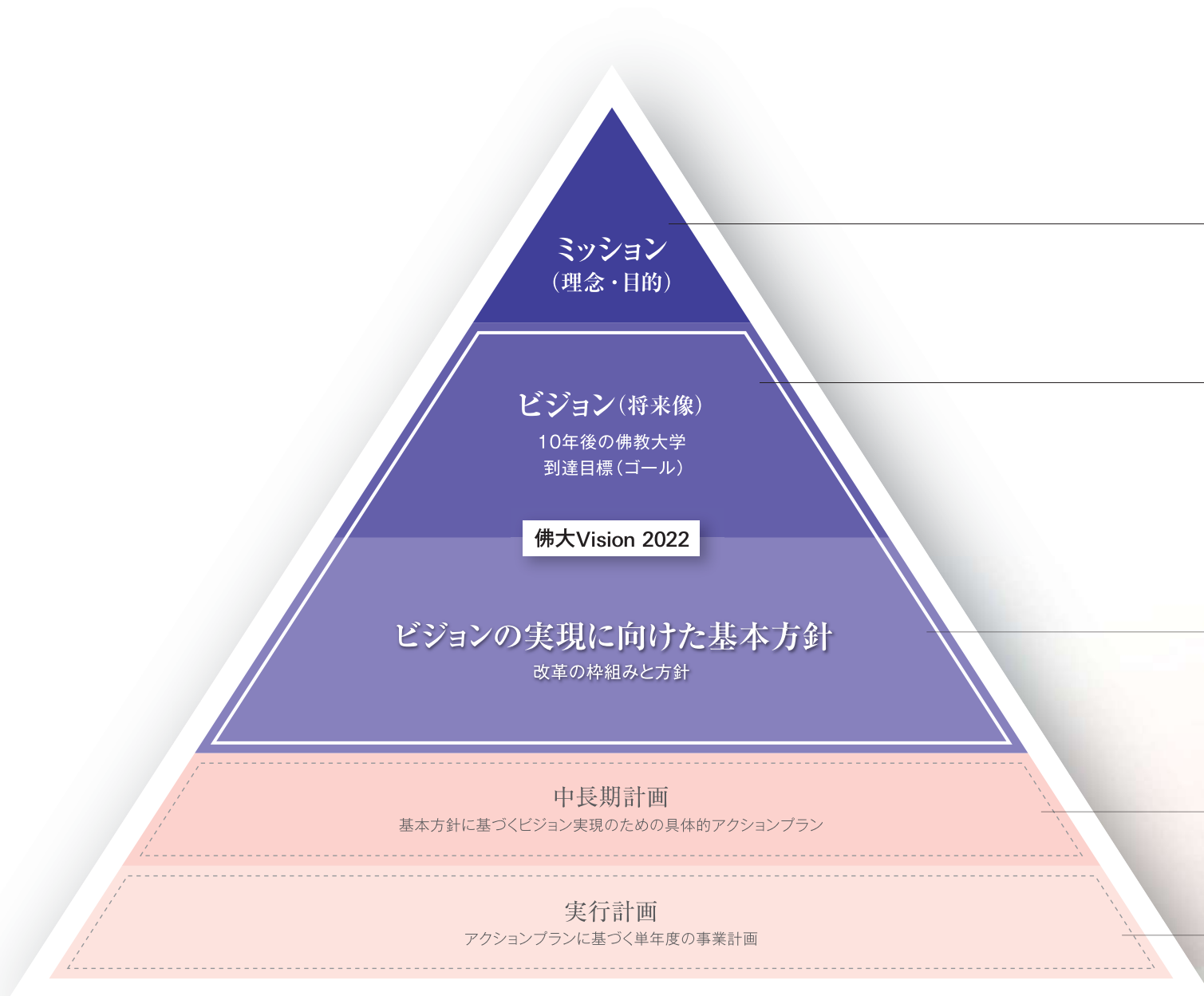
佛大 Vision
2022 将来ビジョン 2013-2022年度



「感謝」から始まる次の百年



● ビジョンの全体像 ●



I 大学の使命(ミッション) P5

II 建学の理念 P6

III 大学宣言「新百年の誓い」 P8

IV 将来ビジョン—10年後の佛教大学— P10
 》到達目標

V ビジョンの実現に向けた基本方針 P16
 》改革の枠組みと方針
 ●教育 ●学生支援 ●研究 ●社会連携・社会貢献 ●生涯学習 ●管理運営

■ 中長期計画
 基本方針に基づくビジョン実現のための具体的アクションプラン(=大学改革マップ)
 [将来ビジョン] =長期計画(2013~2022) [アクションプラン] =中期計画(2013~2017)

■ 実行計画
 アクションプランに基づく単年度の事業計画

※中長期計画と実行計画については今後策定。



I 大学の使命(ミッション)

— 私たち 佛教大学が果たすべき役割 —



法然上人像(浄土宗総本山知恩院蔵)

大学の使命(ミッション)

本学は学校教育法(昭和22年法律第26号)に基き、
仏教精神により人格識見高邁にして、
活動力ある人物の養成を目的とし、
世界文化の向上、
人類福祉の増進に貢献することを使命とする。

(佛教大学学則第1条)

佛教大学は、学則第1条に示すとおり仏教精神を建学の理念とし、大学の責務である「人材養成」を中心として、それに関わる「教育」「研究」「社会貢献」の三領域において、仏教精神に基づく多様な活動を時代に即して行いながら、世界文化の向上と人類福祉の増進に貢献することを使命として、これを達成するためにふさわしい教育研究組織を設置しています。

II 建学の理念 — すべては仏教精神に基づいて —

■ 仏教精神とは — 釈尊と法然上人

本学の建学の理念である仏教精神とは、仏教を開かれた釈尊（ゴータマ・ブッダ）と浄土宗を開かれた法然上人とに共通する生き様と考え方を指します。

■ 人の真の姿は行為によって決まることを主張した釈尊

釈尊は、生まれによってその人の身分や職業が定まるといふ、いわゆるカースト制度によって人々が強く束縛される社会に異を唱え、人の真実の姿はその人が行った行為によって決まることを主張し、生まれによらない平等な立場にたつて人として歩むべき道を説かれました。

■ 救済の道を説いた法然上人

一方、法然上人は、末法とも呼ばれた混乱の続く不安定な時代にあつて、生老病死の苦しみ、天災地変や戦乱の苦しみにあえぐ人々に対しても、地位や能力に関わりなく救済の道があることを示されました。それは自己の愚かさを自覚しつつ念仏を唱えることですべての人が等しく救われるという教えでありました。釈尊によってはじめられた教えは、法然上人によって受け継がれ、新たに展開されたのです。

■ 仏教精神のもと、佛教大学が目指すもの

このお二人に共通する生き様と考え方こそが仏教精神に他なりません。このような仏教精神にのっとり、身の回りにいる人たちの痛みや苦しみをしっかりと受け止めることができ、様々な立場で悩み苦しむ人たちに対して、自分は何をなすべきか、何ができるのかを正しく判断し、自然に手をさしのべる気持ちをもてる人材、そして気持ちだけでなくそのための行動力と技術をあわせもった人材の養成を目指します。



「佛教大学建学之地」碑（浄土宗総本山知恩院三門前）

● 新百年の誓い ●

佛教大学は、2012年、前身の佛教専門学校から数えて開学百周年を迎える。その間、千年の都である京都の地で、仏教精神に根ざした教育・研究の実践に邁進してきた。

佛教大学は、仏教学部仏教学科の単科で出発し、物質文明が強烈なきらめきを発するなかでも建学の志を貫き、人間教育に徹してきた。

佛教大学は、学術研究の成果を地域に還元することに早くから努め、市内に生涯学習の拠点を開設するなど、積極的に地域社会との交流を推進してきた。

佛教大学は、校友をはじめとする有縁の方がたの理解と協力を得て、仏教・文・歴史・教育・社会・社会福祉・保健医療技術の七学部を有する総合大学に成長し、新しい百年を迎えることとなった。また、大学教育の機会均等を実現するため開設した通信教育課程は、60年を経て全国有数の規模に育った。

佛教大学は、百年かけて培ってきた誇るべきこの個性を受け継ぎ、次の百年に向けてより豊かに熟成させ、人間を見つめる開かれた大学として人類の福祉に寄与することを誓う。

｜ 教育の目的 ｜

仏教精神に根ざした人間教育により、寛容にして温和な気風を育み、学生一人ひとりの人間力を伸ばす。

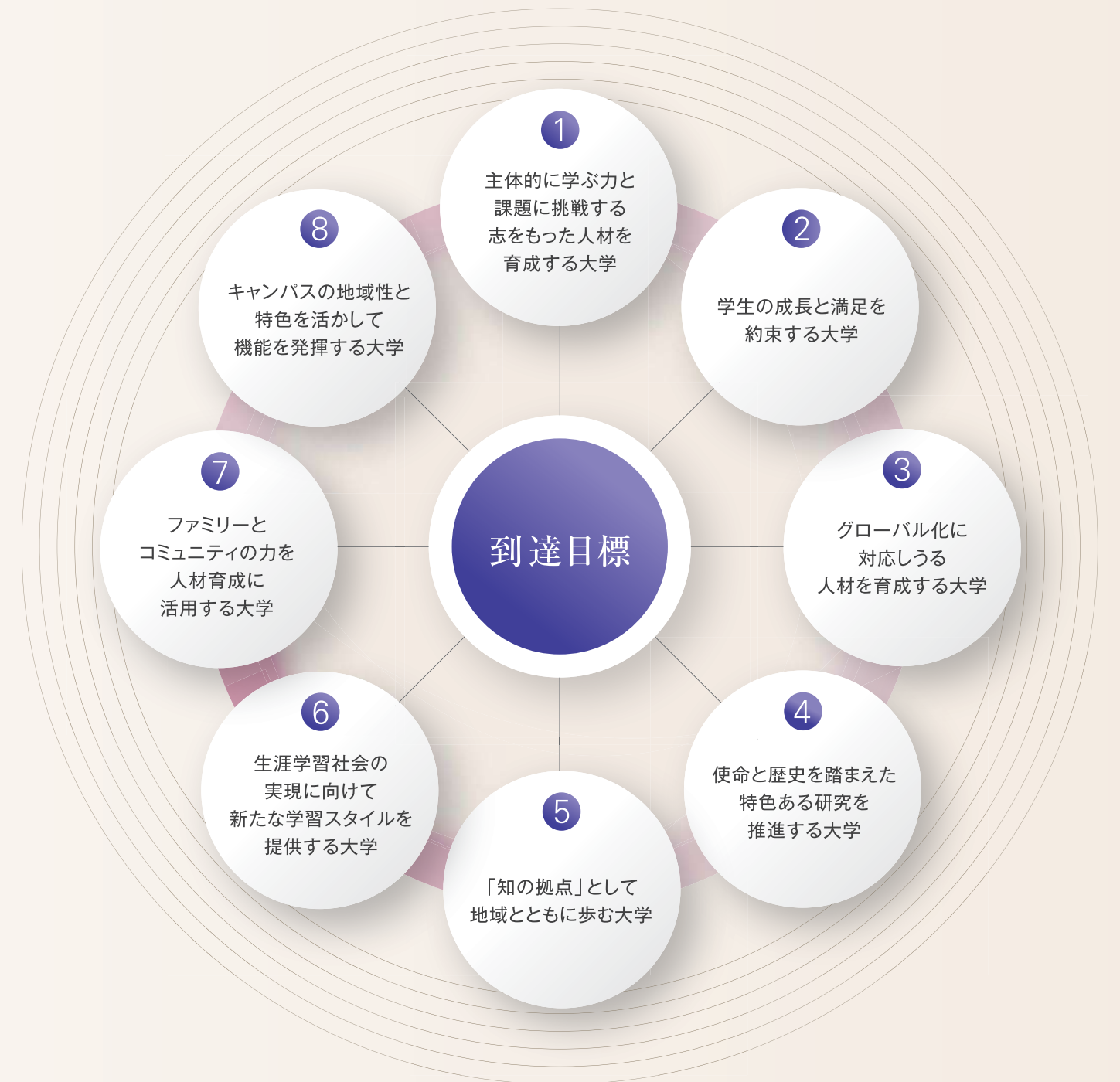
｜ 教育の指針 ｜

- 1 教育・研究のあらゆる場面を通じ、自己を究め、共に生き、他を支える人間性を育てる。
- 2 人の一生に関わる諸問題と真摯に向き合い、自ら課題解明に取り組む専門性と対応力を育てる。
- 3 実社会との連携を重視し、現実直面してゆるがない実践力を育てる。
- 4 国際社会との交流を深め、共生の願いを世界に発信できる人材を育てる。
- 5 学びたい人びとに門戸を閉ざさず、すべてを受け入れるため最善を尽くす。

※2007年10月23日に発表された「新百年の誓い」のうち、2012年現在の状況が異なる学部数と名称のみ変更

IV 将来ビジョン — 10年後の佛教大学 —

高等教育機関を取りまく社会的な環境は今後ますます厳しさを増し、急激な少子高齢化の進行にともない、2018年以降、再び18歳人口の大幅な減少が続く時代がやってきます。グローバル化やユニバーサル化に拍車がかかり、社会が激しく変化していく中で、「格差社会」「超高齢社会」「無縁社会」などと表現される現代社会の諸問題への対応と、「知識基盤社会」に代表される社会状況への適合が大学に強く要請されています。このような激動する世の中にあって、佛教大学は、釈尊と法然上人が歩まれた道、そこで示された生き様、そしてその教えを指針とし、建学の理念と100年の伝統に基づき、困難な状況に遭遇してもひるむことなく、高い志をもって力を発揮し続けることのできる人材を社会に送り出します。また、人と人の結びつきが希薄化しつつある中で、自分自身をしっかり見つめ、他者を思いやり、自分を取りまく他者や他の存在および社会との関わりの中で、自己のなすべきことを正しく判断し、それを実行する意思とそのための能力とを備えた人材を養成します。あわせて、地域や社会との結びつきを強化しながら、教育研究の成果を社会に発信し、社会貢献につとめながら、大学の責務を果たしていきます。そのために、私たちは以下の点を到達目標と定め、2022年にそこに至ることを目指します。



① 主体的に学ぶ力と課題に挑戦する志をもった人材を育成する大学

これからの「知識基盤社会」を動かしていく原動力となる人材として、多様で質の高い人物の育成が社会から求められています。激しく変化する社会の中で、主体的に学ぶ力を持ち、「格差」「高齢化」「無縁」など人の一生に関わる諸問題や現代社会の抱える諸課題にしっかりと向き合い、問題解決に必要な学習や経験を十分に積み重ね、様々な課題に果敢に挑戦することのできる人材を育成します。

② 学生の成長と満足を約束する大学

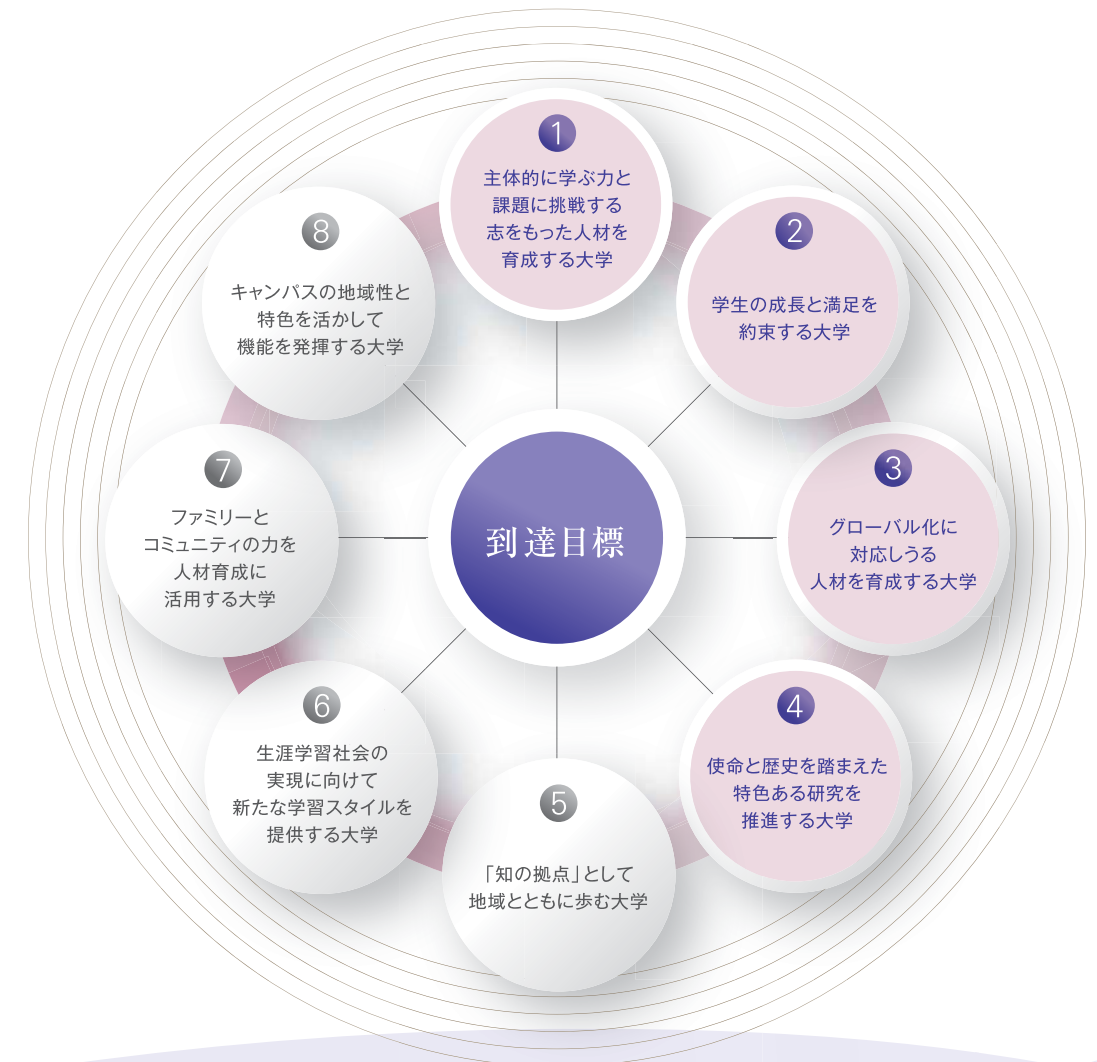
佛教大学は、教員と職員とが一体となり、アットホームな伝統を受け継ぎながら、誇りと責任をもって教育と学生支援に取り組む大学となります。本学が提供するカリキュラムと学びの支援のもと、学生が真に成長を遂げ、本学で学ぶことに満足してキャンパスライフを送ることができるような大学ならびに教員・職員となります。また教員・職員一人ひとりが、学生の支援のために常に成長していくことを約束し、学びの場としての大学の魅力をしっかりと発信します。

③ グローバル化に対応しうる人材を育成する大学

グローバル化への対応が求められる社会にあって、社会や世界のあり方を正確に捉える力を持ち、どのような状況のもとでも、しっかりと自己表現できる力をもつ人材を育成します。また、様々な人々とともに働くことのできるコミュニケーションの力や協力して活動する力を持ち、変化する社会において多様な環境に柔軟に対応することのできる人材の育成につとめます。あわせて、本学がこれまで積み重ねてきた東アジアを中心とする各地の教育研究機関との連携の成果を、人材の育成のためにより一層活用します。

④ 使命と歴史を踏まえた特色ある研究を推進する大学

建学の理念に基づき、法然上人の教えを体現する大学としての使命を果たすために、佛教大学独自の研究を推進します。あわせて、本学の100年にわたる歴史を踏まえ、これまでの教育や研究の蓄積を最大限に活用しながら、人に関わる諸問題の解決に資する研究を中心として、特色ある研究や新しい研究を推進します。



⑤ 「知の拠点」として地域とともに歩む大学

本学は、市民とつながる「知の拠点」として、地域に密着し、地域とともに考え、地域やコミュニティを通じて社会に貢献することのできる大学となります。そのために、地域や社会との連携を強化する組織〈センター・オブ・コミュニティ：Center of Community = COC〉を設け、学生の学びの場としての機能を発揮しながら、あわせて地域再生や地域課題の解決など、社会の多様なニーズに応える大学となります。

⑥ 生涯学習社会の実現に向けて新たな学習スタイルを提供する大学

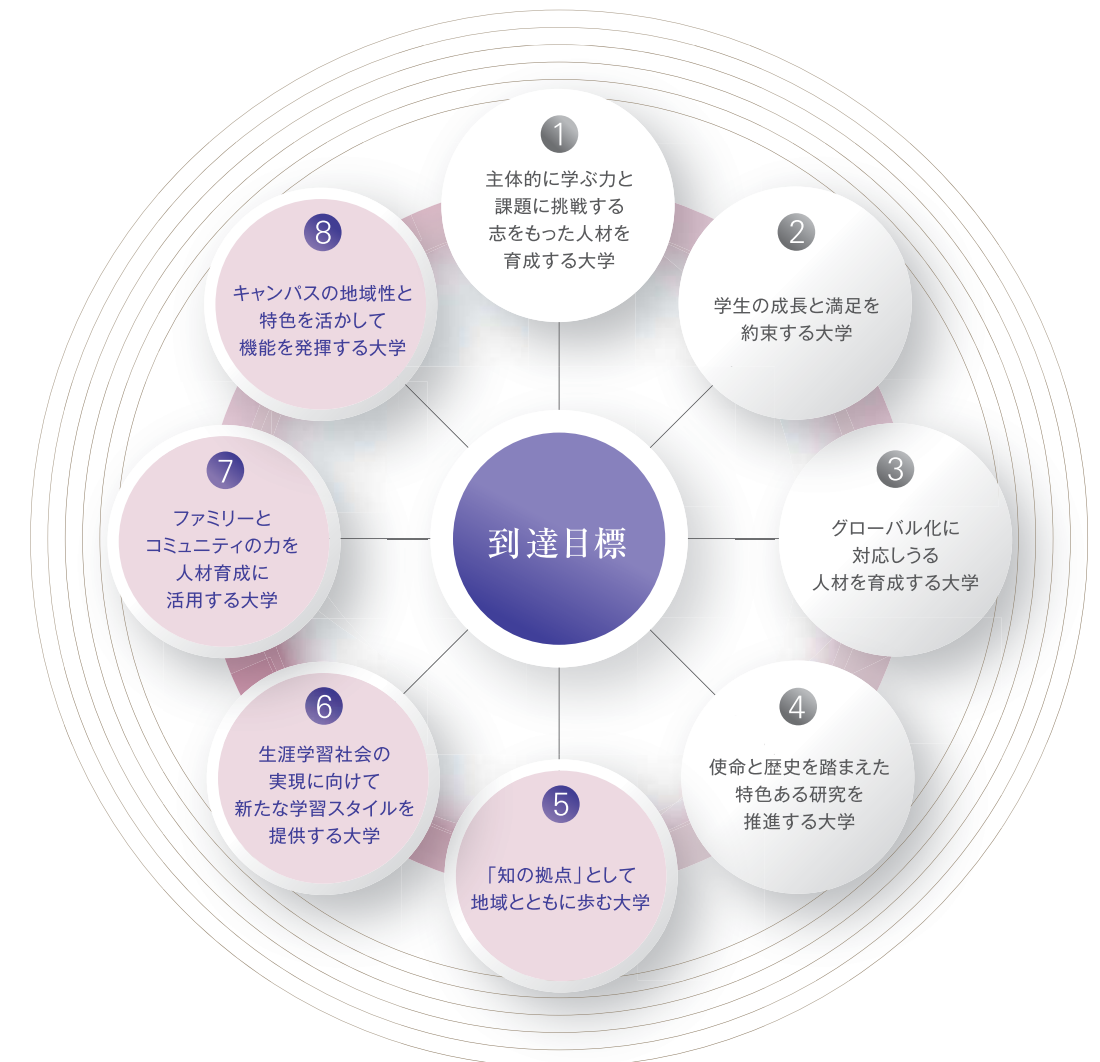
すべての世代や立場にあって学びたい意欲をもつ人々が、だれでも、どこでも、いつからでも、いつまでも学ぶことができる学習の場と機会を提供する大学となります。あわせて、今日的な社会状況を踏まえ、自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力を培うことのできる課程やプログラム、教育ツールを提供しながら、生涯学習社会の実現に向けた取り組みを積極的に推進します。また、在学生、卒業生、保護者ならびにすべてのステークホルダーとの絆をしっかりと保ち、だれもが新しい学びをスタートさせることのできる機会を提供します。

⑦ ファミリーとコミュニティの力を人材育成に活用する大学

社会の中でそれぞれの役割を果たして活躍している本学の卒業生や学友は、これからの大学の人材育成にとってかけがえのない財産であります。このことを再確認し、卒業生や学友と大学とが一体となって活動しながら、相互に社会的な責務を果たしていくための組織づくりを進めます。その上で、同窓を中心とした〈佛大ファミリー〉および大学への共感者を中心とする〈佛大コミュニティ〉を確立し、大学との連携を強化します。

⑧ キャンパスの地域性と特色を活かして機能を発揮する大学

本学が有するキャンパスの地域性や特長、および教育研究資源との関係を踏まえ、キャンパスの特色を明確化したキャンパスコンセプトに基づいて大学を機能的に配置します。その際、佛教大学の教育研究に関わり機能を発揮する中心的キャンパスや、社会貢献や地域連携に関して窓口として機能を発揮するキャンパスなど、各キャンパスがそれぞれの機能を効果的に発揮しながら、本学の魅力を社会に発信できる大学となります。

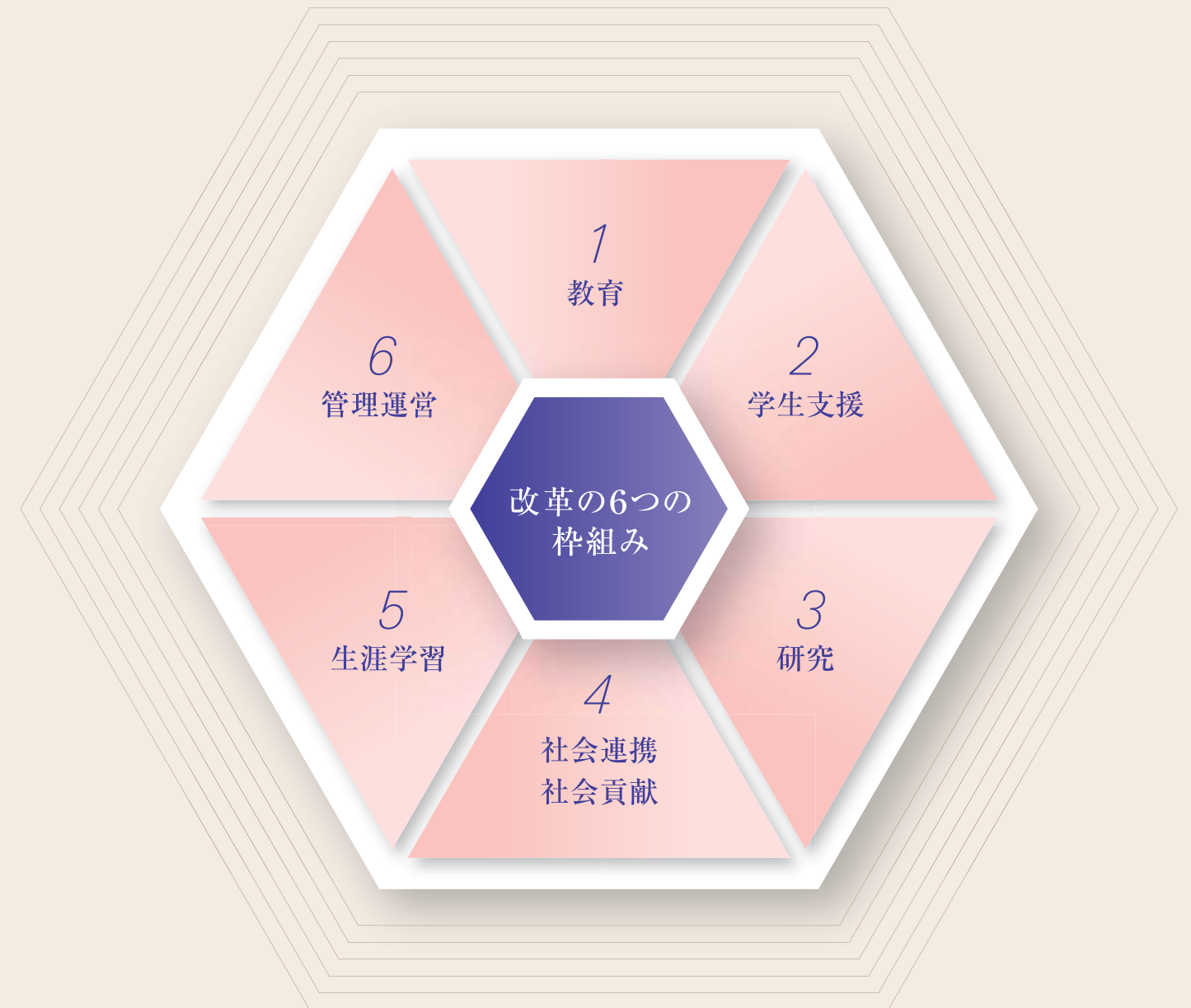


V ビジョンの実現に向けた基本方針

— 私たちが今後取り組むこと —

改革の枠組みと方針

佛教大学は、建学の理念である仏教精神、とりわけ法然上人の教えを礎とし、浄土宗教師ならびに仏教者の養成からスタートして教育の裾野を広げ、人文社会系からさらに保健医療系の教育組織を充実させ総合大学として現在に至っています。本学は、10年後に向け、大学としての質の一層の充実をはかります。その上で、原則的に現在の規模と学生数を基礎とし、社会の要請や時代のニーズを的確にキャッチしながら、100年にわたって培ってきた大学の伝統と蓄積とを活かして、必要な改組改編あるいは学部学科の新設などを通じて教育の充実をはかり、学生が真に実力を向上させることができる教育体制を構築します。そのために、以下の6つの枠組みに基づいて、ビジョンの実現に向けた基本方針を定めました。今後、これらの方針に対応する具体的な実施計画を策定しながら、不断に大学の改善と改革を進めます。



1

教育

本学が、法然上人の教えを出発点とし、浄土宗の大学として歩みながら、この間培ってきた教育や研究の実績に基づき、生涯にわたって学び続ける力や、主体的に考える力を培って、学生が真に成長をとげるように教育を行います。本学における学びを通じて、これからの厳しい社会状況の中でも他者とともに生きていける優れた人間性と、人の一生に関わる諸問題や現代社会の抱える諸課題の解決に向けて果敢に挑戦することのできる意思や能力を育むために、以下の点に取り組むことを基本方針とします。

- 1 本学のこれまでの歴史と伝統を踏まえながら、困難な社会状況にあっても、その力を十分に発揮することのできる優れた浄土宗教師の養成につとめます。
- 2 現在の3つのポリシーを改定し、本学の学びを通じて身につけることのできる具体的な力をさらに明確化し、佛教学の学士力(卒業時に備える力)の内容と特色、ならびに免許や資格の取得との関係をあらためて明示します。そのもとで、本学が求める学士力を培うことを保証する、新しい体系的なカリキュラムを提供します。
- 3 学生の成長と学びの成果を保証するために、教員・職員集団がそれぞれの能力を多面的に発揮できる体制を整備し、教育方法や教育内容に関して、ソフトとハードの両面にわたり改善・拡充をはかります。
- 4 高等学校における学習と本学における学びのスタートが円滑に接続されるよう、高等学校との連携を強化するとともに、入学前教育の拡充をはかります。あわせて、全学的な教養教育基盤の再構築・再整備を実施する中で、初年次教育の充実をはかります。
- 5 社会人として備えるべき多様な力を育成するために、社会との連携を視野に入れながら、全学および学部学科の両面からキャリア教育を展開します。
- 6 学生の主体的な学習を促し、問題や課題の発見ならびに解決に向けた対応能力を育成するために、フィールドワークを中心とした現場学習・体験学習・インターンシップなど、能動的な学習機会の充実をはかります。
- 7 社会的なニーズに対応し、研究者養成・高度職業人養成・生涯学習の機能を果たすために、通信教育課程大学院との融合をはかりながら、特色ある新しい大学院組織を構築します。

2

学生支援

大学の主役である学生が、生き生きとしたキャンパスライフを送ることができるように、学生の視点に立って、〈学習支援・生活支援・課外活動支援・就職支援・健康支援〉など一連の学生支援に関して、入学から卒業までこれらを一貫して行う体制を構築して取り組みます。あわせて、学生がキャリア形成の重要性を自覚し、将来の進路をしっかりと定められるよう支援を行います。(なお、ここでは主として通学課程の学生に対する支援の基本方針のみを示し、通信教育課程に関わる点は生涯学習の部分で触れます。)

- 1 学習の支援に関しては、学士力の基礎となる力の養成、幅広い教養、キャリア形成、就職活動などを含んだ総合的な学習支援を、学生・教員・職員が一体となって展開できる体制を構築し、実施します。また、ICT (Information and Communication Technology) を活用し、学生ポータルサイトの充実や学習ポートフォリオの導入などを進め、学生の学習サポート体制の拡充をはかります。
- 2 課外活動については、これを正課とならんで人材育成のための重要な教育活動と位置付け、学生の多様な課外活動への参加を奨励するとともに、その活動を支援します。
- 3 学生のキャンパスでの生活に関わる支援としては、ユニバーサルデザインに配慮し、学習に適したキャンパスと学習環境を整備するとともに、学生が学習を中心とした活動やキャンパスライフにおいて、自由に活用できるスペースを提供します。
- 4 多様な学生のニーズに応えることのできる奨学金制度を整備し、その充実をはかります。

3

研究

仏教精神を建学の理念とし、法然上人の教えを体現する大学であることを踏まえ、研究機関としての本学の使命を果たすために、佛教大学が取り組むべき特定研究を明確化し、これを推進するための体制を構築します。また、本学の100年にわたる教育研究の歴史を踏まえ、本学の特色を活かした独創的な研究を一層進展させるとともに、新たな研究へと発展させていくための体制を構築します。あわせて、新しい教育を展開するための基盤となる個々の研究や共同研究などを推進していくために、特色ある研究や新しい学際研究に対する支援を行います。

1 大学の使命に即した特定研究を推進するために、「法然仏教学研究センター(仮)」を設置します。

2 大学の特色を活かした独創的な重点研究を展開するために、これを総合的に支援する機関として、「佛教大学リサーチセンター(仮)」を設置します。そのもとで、時代の要請に対応する新たな学際的研究、大学を取りまく地域社会とそこに住む人々に関わる新しい研究、生涯学習の充実や展開に資する研究などを推進します。

3 本学の特色ある研究を推進するために、研究のための外部資金導入を積極的にはかります。

4 将来の教育研究を担う若手研究者に対して研究支援を行います。

4

社会連携・社会貢献

市民とつながる「知の拠点」として地域に密着し、地域とともに考え、地域やコミュニティを通じて社会に貢献するために、地域や社会との連携を強化する組織として、新たに「佛教大学センター・オブ・コミュニティ縁(Bukkyo University Center of Community Enishi) (仮)」を開設します。このCOCを、〈学びの場〉としての「生涯学習センター」、〈交流・活動の場〉としての「共生社会交流センター(仮)」、〈子どもと心をケアする場〉としての「子どもこころセンター(仮)」からなる総合的な社会連携・社会貢献のためのセンターと位置付け、これを二条西キャンパスに開設し、以下の基本方針のもと、ここを地域との連携拠点として社会連携・社会貢献を推進していきます。

1 「社会連携センター」を発展的に解消し、「コミュニティキャンパス」などの活動を含む新たな組織として「共生社会交流センター(仮)」を位置付け、ここを中心に地域連携体制を再構築し、社会的なニーズを踏まえて対象や課題の焦点化をはかりながら、地域における特色ある交流や活動を推進します。

2 「ボランティア室」の活動を発展させ、学生・教職員が一体となった地域への貢献活動を推進します。

3 連携協定を締結している団体や本学と関係の深い組織との協働活動を、積極的に推進します。

5

生涯学習

本学は、60年にわたる通信教育課程の歴史と蓄積を財産としながら、通信教育の枠組みに限定されず、生涯にわたって学ぼうとする人々を世代や立場を越えて受け入れ、だれでも、いつからでも、いつまでも学び続けることができる生涯学習の場を提供します。とりわけ、教育組織としての生涯学習機構の中に、通信教育課程ならびにCOCの一部である「生涯学習センター」を並置し、以下の基本方針に基づいて機構全体として生涯学習社会の実現に向けた取り組みを積極的に進めます。

- 1 教育組織としての通信教育課程を、本学が取り組む生涯学習の一部に位置付け、通学課程に併設されてきた学位授与の課程を見直します。あわせて、学習者や社会的なニーズに応じて焦点化をはかり、新しい通信教育のスタイルを構築するとともに、それに基づく多様な教育プログラムとして、＜学士を取得するためのコース＞＜プログラム学習コース＞＜科目履修コース＞＜免許資格コース＞＜教養コース＞など、多様なコースを提供します。
- 2 通信教育課程は、ICTを全面的に活用した＜eラーニング＞のスタイルを基盤とする課程へと改革します。また、多年にわたり培ってきたスクーリングの長所を活用しながら、「生涯学習センター」において提供されるプログラムや講座を補完して、新しい生涯学習のあり方を提供します。あわせて、生涯学習の多様な教育プログラムにおいて学ぶ学生に対する学習サポートのさらなる充実をはかります。
- 3 「生涯学習センター」を、生涯学習社会への対応をはかる、総合的な＜学びの場＞と位置付けます。そのもとで、通信教育に関わる講座、本学の教育研究資源に基づく講座、免許資格の取得に関わる各種講座、就職対策講座、キャリアアップ特別講座など、新しい生涯学習に関わる講座を多角的・戦略的に提供するためのセンターとして運営します。

6

管理運営

少子化や私学助成の抑制など大学を取りまく社会状況が厳しさを増す中において、本学の収入が基本的に学生生徒等納付金に大幅に依存している現状を再認識し、これ以外の外部資金の獲得につとめながら、大学全体としての安定的な収入の確保ならびに適正な支出のあり方を構築します。そのもとで、厳しい状況にあっても将来の展望を描くことができる健全な財政状況を確立し、適切な大学運営を行っていくために、以下を管理運営の基本方針とします。

- 1 法人の経営基本方針に基づいて大学の中長期財政計画を構築するとともに、本学の財務状況に関わる情報公開を進めます。
- 2 多角的な検討と戦略的な企画の推進によって、多様な外部資金の獲得につとめます。
- 3 健全な財務体質を確保するために、教員・職員の定員枠（人件費枠）の設定を行い、そのもとで中長期的な人事計画を策定します。
- 4 教員・職員の採用に関わる基本方針を明確化し、あるべき教員像や職員像を提示して、優れた人材の採用につとめます。あわせて、適切な教員評価を実施するための体制の整備、ならびに職員の人事評価制度の改善・拡充をはかり、本学が目指す教育の推進に資する教職員の体制を確立します。
- 5 業務監査体制・外部評価体制の構築といった内部質保証体制の拡充を推進するとともに、ガバナンスの強化につとめ、大学の改革を不断に実行します。
- 6 自然災害、感染症の発生、大学関係者の事件事故など、不測の事態に対応することのできる危機管理体制を整備します。
- 7 管理運営を中心とした全学的なICT化を計画的に推進します。
- 8 安心安全で快適なキャンパスを構築するために、メンテナンスを含めたキャンパス施設設備の整備を進めるとともに、各キャンパスや各施設の機能にあわせて効果的な活用を推進します。

ごあいさつ

佛教大学は、このたび開学100周年を迎えました。私たちは100周年という記念すべき時を迎えるにあたって、100周年記念事業の基本コンセプトを「感謝～ありがとう～」と定め、本学の100年の歩みを支えてくださった有縁の皆さまや地域・社会に対して、感謝の想いをお伝えする取り組みを進めました。それとともに、100年を越えて佛教大学がこれから目指す未来の姿も、大学に関心を寄せてくださっている方々にお伝えしようと考えました。それが、この「佛大Vision 2022」にあります。

私たち佛教大学は、仏教精神を建学の理念とし、法然上人の心に基づく教育活動を100年にわたって続けてまいりました。この歴史と伝統を守りながら、激動する社会の中で、自分自身をしっかりと見つめつつ、生まれてから死ぬまでのライフステージの中で、様々な悩み苦しむ人々の存在をしっかりと捉え、そのような人々のために活動し、社会に貢献できる人材を育成することが本学の使命であります。

この使命を果たしながら、あわせて時代や社会から求められるニーズに応え、困難な状況に遭遇してもひるむことなく、高い志と勇気をもって歩み続けることのできる人材の養成を行わなければなりません。そのために、本学が目標とする10年後の「佛大像」と、そこに向かって進むための基本方針とを本ビジョンにおいてまとめました。

私たちは、佛教大学に関わるすべての人々の力を結集し、大学と社会の未来に関する想いを一つにしなが、すべての事業を推進してまいります。佛教大学の使命の遂行と、将来構想の実現に向けて、皆さまの温かいご支援とご協力をお願い申し上げます。

佛教大学長 山極 伸之

佛大Vision 2022

2012年10月23日 発行

佛教大学

京都市北区紫野北花ノ坊町96

Tel.075-491-2141(代)

www.bukkyo-u.ac.jp/